

イーマ第107回定例会

前田華郎先生

～癌にならないために、なったらどうする～

2012年7月27日 四ツ谷区民センターにて

■がんにならないためには：

-がんとは個性を持った正常細胞が、慢性的な嫌がらせを受けた結果、別な形(がん幹細胞)に変身して、無制限に増殖する細胞の集団である。

-慢性的な嫌がらせとは、物理的器械的刺激、口から入るもの、正常細胞の生存にそぐわない環境、正常細胞に対する精神的ストレスなどである。

例：東大の山際教授がうさぎの耳にアルコールを毎日塗り続けた。うさぎの耳は異物で一種のテロ行為とみなし、細胞が悪化していくことがわかった。

例2：家でたばこを吸うと、家にいる犬は煙から逃げることができるが、細胞は逃げるのが不可能。

1. 口から入るもの・・・がんの原因の半分は口から入るもの・・・

遺伝と家伝について：

「がん家伝を断つ」加美山茂利教授ほか・・・癌の遺伝よりも、祖母から母へ、母から娘へ伝承された

食事の内容と調理方法が、結婚した男性の運命を決める。男性のがんの70%、女性のがんの75%がその人の食事を含めた生活環境と密接な関係を持って発生している。

-アメリカにおける前立腺(ホルモン系の為、女性は乳がんとも言える。)の発生率は中国人の30~40倍、アメリカでは動物の赤肉と乳製品を中心に飽和脂肪酸を大量に摂る。

週5回肉食を摂る人は、週1回の人よりも2~3倍も前立腺がんになりやすい。

-1977年米国で出版された「Dietary Goals」：野菜、未精白穀物、魚、鶏、脱脂粉乳を増やし、肉、卵、

牛乳、バター、砂糖、脂肪分の多い食べ物を減らすこと。日本食を推奨。大豆に含まれるイソフラボン、

フェトエスゲンは、がんを正常細胞に戻す力がある。

-アメリカ人に関わらず、日本人でも多民族でもBBQなどアメリカのような食生活が増えたと同様の結果になる。

■玄米と白米と玄米発酵食：

なぜ白米ではなく玄米を食べる必要があるか？

・玄米は白米に比べて栄養量が極めて豊富。

玄米は硬くて食べれないという人は玄米を含んだ玄米発酵食品で補うことができる。

■「できるだけ生のもものを食べよう。」ウイリヤム・A・トーマス博士

-火を使わないイヌイットにはリュウマチ、心臓病、痛風、血圧などはない。

-酵素は加熱で死ぬ。高齢になったら酵素を補おう。

■植物酵素と健康との関係：

-どうして生のもものを食べるかという、2種類の酵素があり、消化酵素と代謝酵素が体内に存在する。

-年齢と共にそれらの酵素量は体内で減ってくる。

-熱を加えたものを食べると消化酵素が増えて、代謝酵素が減る。

-熱を加えた酵素を含まない食品を食べていると酵素はどんどん減り続けるが、生の食品には酵素が含まれている。

-生の食べ物は胃の中で自分の酵素で溶けてくれる。

例：古い油で揚げた天ぷらは酵素をたくさん体内で消化酵素を必要として出ていく為、代謝酵素が減ってきて

病気になりやすくなっていく。

-だから刺身や生野菜など酵素を含んだものを摂取する必要がある。

■乳製品と栄養制限について：

肉食、牛乳の可否、栄養と断食療法、刺激物、宗教上肉を摂らない信者は他よりも癌発生率が少ない。

インドの国立栄養所所長のマッカリソン博士の報告(1920)、雑食性のネズミを各1000匹のグループに

分け、A群には世界的長寿国フンザ食(アズを主体とした菜食)、B群にはインド食(強い香辛料と

鶏肉とライス)、C群には(牛肉主体の副食と精白パン)を与えた。

2年半後に、全マウスを殺して内臓を観察したところ、A群は100%完全に健康体、B群は胃腸障害、貧血、脱毛、腎炎、などの内臓疾患が見られた。C群ではB群で観られた症状のほかに、精神、神経活動にも異常が見られ、肥満でも共食いをしていたという結果が出た。

牛乳：インスリン様成長ホルモン(IGF-1)は細胞を大きくする作用がある。

これによって乳児期、思春期は細胞分裂と増殖を起こすが、成人ではこれはがん発生と増殖に関係してくる。牛乳はこのIGF-1を増加させる作用がある。牛乳の生産量を増加するため遺伝子組み換え

牛成長ホルモン( $\gamma$ BGH)が牛に注射されるとIGF-1が増え、血中の細胞分裂を刺激する。

その為、牛肉と牛乳は摂取すべきでない。牛肉は絶対に摂らないというわけにはいかないが、牛乳は

飲まないという選択ができるし、豆乳に変えることもできる。

植物エストロゲン(イソフラボン)、クメスタン、リグナンは乳がん、前立腺がんの予防になる。

■乳製品の消費量と乳癌の発生率：

欧米は牛肉や牛乳の摂取量が多い為に、乳がんの発生率が高い。

日本でも同様の食生活をしていると同様の結果になる。

■断食療法：

少々脂肪がある方が癌になった時に強い。細い人が癌になった際に断食などすると病気に勝てない。

その為、栄養を落とさずに腹8分目で間食をしないという療法を推奨したい。

■水について：

H2OにはD20(重水素)が含まれている。

これが少しでも含まれていると、人体に悪影響を与える。

・ハンガリーのガボー・ソムライ博士。

自然水でも硝酸塩の危険がある。

・検査法(共立理化学研究所で購入可)。

■喫煙：

主に口腔内、食道、肺、膀胱、その他のがんにも影響している。

■強い酒、強い香辛料：

食道がん、胃がん、肺がんの原因。

■濃い塩分：

胃がん、食道がんの原因。

■解毒について：

体内の毒素排泄、有害重金属の排泄・中国パセリ(コリアンダー)、ヘルスカーボン、遠赤サウナによる発汗

が有効。

1. 脊椎側湾症：

背骨の真っ直ぐな人に病人はいない。背骨は全ての臓器に関わっている為、真っ直ぐに保つことはとても大切なこと。

真っ直ぐになると血流が良くなり、病気になりにくくなる。

2. 環境：

ストレス、寝室の周りにテレビ、冷蔵庫などの電気製品を置かない。最低3メートル以上離れた場所に設置すること。

寝室の下や近くに高圧線があると病気になる。

3. 間接的因子：

脊椎側湾、咬合不全、運動不足と脳、冷え症、血流障害：青魚、オクラ、生姜、トロロ、納豆、ココア、

活性酸素：ビタミンA, C, E、セレンウム(バター、ワカサギ、小麦胚芽など)、フラボノイド、カタラーゼ(大豆、ゴマ、抹茶など)

青魚で肝がんリスク低下：不飽和脂肪酸を多く含む8種類の魚(鮭、マス、アジ、イワシ、タイ、さんま、サバ、うなぎ)

などは70.6g/日は9.6g/日よりも発症のリスクは36%低かった（癌研）

#### 4. 感染：

歯周病菌・・・食道がん。

ピロリ菌・・・胃潰瘍、胃癌、（グリセリン抽出法を使用したプロポリスが有効）

パピローマウイルス・・・子宮頸がん

EBウイルス・・・咽頭がん、単純性ヘルペスウイルス、C型、B型肝炎ウイルスに対する新しい療法。

（タミフルとチョコらBBの併用が有効）

## II. がんになったらどうする

### 1. 真のがん治療はがんエネルギーを消滅させること

○ がんになったら何が怖いのか

腫瘍が大きくなってくると、消化管が詰まって食べられなくなったり、便秘になったり、神経を圧迫して痛みが出る。

そうなれば手術をするか、切ってもまたどこかに現れて、体を蝕むサイボーグのようながんに対して、

現代医学は長い間手をこまねいてきた。

化学兵器(化学薬品)や放射線で立ち向かってはみたものの、とても手に負える相手ではない。

どこかに潜伏しながらゆっくりとエネルギーをためて、大きくなろうとする。＝現代医学の限界。

○がん患者さんは2つの異なったエネルギーを持っている。1つは正常なエネルギー、2は癌のエネルギーである。

したがってがんのエネルギーを消してしまえば、その人は再発も転移もしなくなり、正常な人間に戻れる。

では、がんで死なないためには、癌腫があってもなくても、第一にこのがんエネルギーをターゲットにする医療が本当の

がん治療ということになる。

それには、体内にサイボーグ（がん幹細胞）を作らせた原因から考え直さなければならない。

### 2. 患者の心得：原因と思われるものを思い出して対処する(全項参照)。

落ち着いて計画を立てる。現代医療と代替医療の現状を良く知ることが大切。

### 3. 癌の早期発見の重要性

早ければ早く治る。遅ければ治療に時間と費用がかかるし、治っても再発しやすい。

日本対がん協会会長垣添忠生氏は、「がんの恐ろしさは、体の中で発生した時は、何の症状もないが、

症状が出て病院を受診した時、運が悪ければ手遅れで治せない。

無症状の時期に発見できれば、死なないで済む。

適切ながん診療があれば完治できる。しかし残念ながら、現状では治癒率は5割程度。

そこで予防、検診、診療、緩和医療が4本柱」と何度も同じことを言っている。

・最近の早期発見法：ゲノム解析法、特殊なマーカー、特殊な液体検査、分子共鳴診断法（QRS、O-リングテスト、

など誰でも早く簡単に発見可能）。

### 4. がんの発生から病院で発見されるまで・・・現代医学の現状を知る

・根治手術したつもりでも7割は微小な癌が増殖する。

・東京慈恵会医科大学付属青戸病院の吉田和彦教授は、「原発巣を見える範囲で完全に切除しても、

7割の患者さんには、切除した場所や遠隔臓器に微小な癌細胞が残る。癌細胞を完全にゼロにすることは難しい」。

○自分でも注意する初期がんの微候：

長引く症状（湿疹、咳、痛み、出血、便秘、倦怠感、貧血、食欲減退、失声、視力の減退、変化など）。

リンパ線腫張、乳房、（乳頭からの出血、しこり）潜血反応、など。

### 5. 医学の進歩に取り残された腫瘍学・・・不安材料の多い現代の癌医療。

1つは診断学、2は治療学。

・健康診断で異常なしが、翌年はもう末期がんと言われることがある。

- ・現代のがん患者は以下の脅威と戦わなければならない。＝あやふやな診断、抗がん剤の副作用、後遺症、再発、転移、医療費、治らない治療、死の不安。
- ・現代医学は肉眼で捕えられる最小単位の癌腫瘍を発見するための検査。
- ・ヘリカルCTなど、マンモグラフィーのような不要な検査や重複検査が多すぎる。・・・

#### 医療費の無駄使い：

- ・PETはがん細胞の活性の有無を調べる方法・・・しかし信頼性に乏しい面がある。
- ・現代医学は決断できない診断が多い。病理組織検査も絶対ではない。
- ・怪しければ手術する。・・・切ったらがんはなかった（ただのカビだった）ということもよく聞く。

6. 現在の標準治療ではがん患者は多くの犠牲を払っても治っていない。  
立花隆氏：世界一流大学の癌研究施設の長に会い、癌治療の現状と将来について尋ねたところ、ゲノムを解析しながら有効な薬を探すことは100年かかっても不可能に近い。  
結局薬ではがんは治せないのが結論。  
それでも抗がん剤は後を絶たない。当院の統計では抗がん剤を使った方がむしろ悪い。

- ・抗がん剤の治験に参加することは、自殺行為、抗癌剤地獄の舞台裏：製薬会社が新薬の研究費として多額の金が医師に支払われる。医師は患者から有料で、しかも承諾なしに投与することがある。これは違法行為である。いかなる副作用が出ても対処しない。これで死んでも何の保証もない。診断書は「がんで死亡」と書くが、「抗がん剤の副作用で死亡」とは書かない。

・現代医学の間違った方向性：癌があればそれを縮小または、視野から消してしまうことが主な治療としている。しかし、手術でとってほとんどの方はまだ生きたがんのエネルギーを(癌の活性を持った微小ながん)を持っているので再発や転移をする。少しでも再発の傾向があれば再手術か、強い抗がん剤をやる。その結果、多くの患者が強い副作用で体調を崩し、余命まで言われて緩和ケアへ送られる。だから、がん＝死とみんなが恐れる。  
東大医科研の後藤典子准教授は、がん幹細胞は、抗がん剤や放射線は効きにくいと言っている。それなのになぜ化学療法や放射線以外の治療方法を研究しないのか？  
以前として薬でがんをたたこうとしている。

癌死亡の最も多い原因は再発転移である。では一体何ががんの再発や転移の原因なのだろう？  
答えは1つ。それは癌の周辺に必ずある癌エネルギーの存在である。  
なぜなら、癌エネルギーを消滅させねば再発転移が防げるからである。  
現代医学では、このエネルギーの存在部位を発見できないし、発見するための研究もしない。アメリカで開発された新薬が癌の救世主と思っているが、良くて延命率が少し伸びるくらいだろう。  
このような医療を国は日本全土に広めようとしている。癌の専門医が日本には不在。

#### 7. 後遺症で悩む人々＝今後絶対受けてはならない治療。

放射線の全照射・・・胸部、腹部、頭部  
口腔、顎周辺への放射線照射・・・唾液分泌障害  
手術：耳下腺癌・・・顔面神経麻痺  
肺葉切除・・・呼吸困難  
上顎洞がん、上咽頭がん・・・顔の変形  
それに対しての有効な治療法は後述する。

#### 8. 末期がんの定義は、医師自身の医療技術で決められる

末期がんの定義は、医師自身の医療技術で決められる。現代医学の医師たちは、3大療法しか持たないから、もともと癌は治せるとは思っていないから、大きく取っても再発転移すれば余命を告げる。  
まだ元気な人でも治療法の手持ちがなくなれば、末期がんということになる。  
現代医学では癌の勢いを止められず、限界があり、PET、内視鏡、CT、骨シンチ、腫瘍マーカー、病理組織検査も含めグレーゾーンが多すぎる。共鳴反応ではグレーゾーンはない。  
癌の勢いを副作用無しで止めてUターンさせてこそ、本当の癌治療と言える。

#### 9. 自分自身で癌から身を守るしかない。

①糖분을減らす、新鮮な野菜、禁酒、牛乳や肉食を止める。

栄養は落とさないように、ビタミンACE、ミネラルを多く摂る。  
断食も含めた過度の食事制限は要注意。栄養の保たれている人はむしろがんに克てる。  
ゲルソン療法は日本人に合うのか。  
新鮮で無農薬のケール、かぼちゃ、ゴボウ、ニンジン、小松菜、ブロッコリー、  
カリフラワー、ハウレンソウ、パセリ、セロリ、各種果物、以上をジューサーにしてできるだけ飲む。

②自己免疫力が癌を治す。食べてがんを克った人。好きな酒を楽しみながら飲んでいたらがんが消えた。  
楽観主義者は悲観論者よりも改善する。  
画家は一般に長生き、感動が最高に免疫力を上げる。

③最近の代替医療・・遺伝子治療：健康な遺伝子(タンパク質)を注入して傷ついた遺伝子を修復する。  
・・がん細胞だけでなく、正常細胞の機能も変える。欠陥遺伝子修復のための遺伝子治療(ウイルスで運ぶ)。  
分子標的薬：癌細胞に特異的に働き、正常細胞への影響が少ない。  
1か月65-76万円。タンパク質に特異的に結合する。(HER2)  
がん細胞をアポトーシスに誘導する治療薬・・延命効果3年でがん細胞は死んでいない。  
各種免疫療法：NK-T、樹状細胞など。  
BAK療法：正常細胞を認識して、それ以外を攻撃する。高い有効率と書いてある。  
ビタミンCの大量点滴。オゾン療法、など。  
通常の治療率を10とすると2程度。組み合わせても4程度で、何年もかかる為にその割に高くつく。

血管新生阻害剤：サリドマイド、サメの軟骨  
癌のステージによって健康食品は有効で、下記のようなものは良い部類に入る。  
漢方、各種健康食品：ビワの種、ミセル化抽出プロポリス、メシマコブ、タヒボ、  
ゲルマニウム、EMXなど、健康器具、その他・・これをやったら癌が治った？

④温熱療法  
温灸、ハイパーサーミア、岩盤浴、ラジウム温熱、ホスミス、気功。

⑤自分でできる簡易癌治療器・・遠赤外線温灸器  
がんがあるととても熱く感じる。

⑥共鳴反応：O-リングテスト  
遺伝子の重さで観る

## 10. 副作用、後遺症もないがんにも有効な治療法の研究開発

- ・遠赤外線を利用した治療を行っている。11年間で4,000例以上の治療実績。
- ・腫瘍細胞と正常細胞に対するマイクロ波の作用の差異も明確。
- ・様々な癌細胞に適している。
- ・統計で癌細胞が発展し続けず広がらずに途中で年数が経過しても留まっている例が多い。
- ・腫瘍マーカーが一時的に上昇することもある。
- ・癌活性が死滅してもしばし組織検査が陽性のこともある。
- ・癌が死ぬと膨張するものもある。

11. 日本では、「標準治療」が強過ぎて他の良い方法が潰される。  
-抗がん剤を拒否すると、もう観てもらえないことになるので、患者もはっきりと自分の意見や他の併用療法をやっていると言えない。  
-代替医療を禁止されても、今時、抗がん剤だけを受けている患者はいない。  
-抗がん剤だけではありえない改善例を抗がん剤単独で改善したとして発表している例が多くなっている。・・良い治療法で改善した例を捏造されている。  
-今の医療産業では、医療費はますます高騰して国家予算を圧迫する。

以上。